

長野県産業教育振興会 特別生徒研究実施報告

長野県諏訪実業高等学校 服飾科

- 1 研究テーマ オリジナル作品制作と発表方法の研究
- 2 研究者 服飾科 3学年 花岡 日珠 他 27名
- 3 研究の目的

3年間の専門科の学びの集大成として一人ひとりオリジナルの作品制作を行う。オリジナルデザインを実現するための方法およびステージでの効果的な発表を研究する。問題解決をはかりながら技術および課題解決能力を高め、創造性を育てることを目的とする。

4 研究の概要

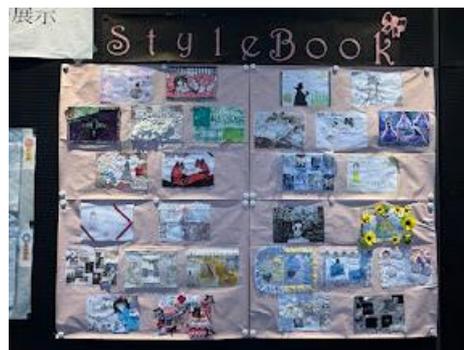
(1) 発表会の概要

- | | |
|------|---|
| 名称 | 第17回 服飾科学習成果発表会 テーマ「Bouquet」 |
| 日時 | 令和8年1月24日(土) 10時30分～12時30分 |
| 会場 | 茅野市民館 |
| 発表内容 | I 展示発表の部
・生徒作品展示
・諏訪市「相手意識に立つものづくり科」作品およびパネル展示
II ステージ発表の部 ～卒業制作ファッションショー～ |
| 入場者数 | およそ475名 (生徒255名、招待者150名、来賓28名、職員37名、一般およそ130名) |
| テーマ | 「Bouquet」
花束に色とりどりの花があるように、一人ひとりの個性が輝く Bouquet となり、今までお世話になった人々への感謝の気持ちと感動が、見て下さった方々に届きますようにという想いを込めた。 |

I 展示発表の部

3年生の展示係が計画を立て、展示ブースを設営した。内容は次の5種類である。

- ① ボディ5体でのファッションショー作品
- ② 学習成果発表会で披露する作品のコンセプト等を一人一人記した『スタイルブック』
- ③ 学習成果発表会までの日常の学校生活の取組みを表した『リボンの木』
- ④ 校内ファッションデザインコンクール受賞作品
- ⑤ 諏訪市「ものづくり科」の小中学生の取り組み 作品及びパネル展示





II ステージ発表の部

(1) オリジナル作品制作の過程

オリジナル作品制作のプロセスは、まず作りたい作品のデザインを考え、デザイン画で表現する。それを衣服のかたちにするため型紙を試作し、その型紙を基に必要な場合はトワルを作成し、縫製方法を研究して作品を仕上げていく。

①デザインの発想

作品のテーマを決め、書籍や画集、インターネットを活用してデザインイメージに必要な要素を選び、アイデアを整理し、修正を加えながらデザインにしていく。

②製図

デザイン画をもとに実際に作品を形にするため、文化式原型や1・2年次で製図したものや検定の型紙を使用し、製図をする。デザインに合わせて展開、応用する。平面での製図のほか立体裁断を行いながら製図を作り上げていく。パターンからトワルを作成し、試着・補正を行いながら、イメージに近い形を見つけていく。

③縫製

地直し・裁断・しるしつけ・本縫い・装飾の順で作り上げる。3年間で学んだ縫製の技術だけでなく、資料・文献等を参考に制作する。テキスタイルや装飾、着装でオリジナル性を追究する。



(2) オリジナル作品例 (デザイン画と完成作品)

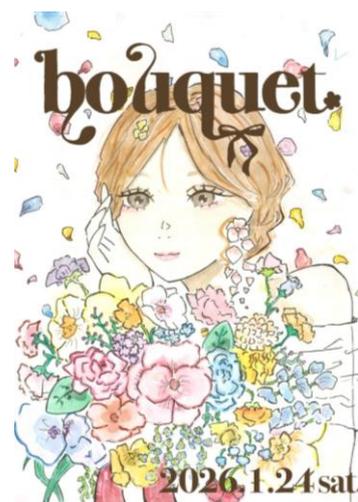
<p>「ひまわり」 明るく前向きな印象である“ひまわり”をイメージして製作した。見る人が元気になった欲しいという想いを込めて製作した。</p>	<p>「sparkle flower」 憧れの着物を、大好きな白色でウエディング風に仕立てた。衣装全体の輝きや、布の素材にこだわって製作した。3年間の学習の成果、感謝の気持ちが伝わるよう、願いを込めた。</p>	<p>「Ocean Pearl」 マーメイドの尾びれが動き輝く雰囲気、フリルを何枚も重ねて裾の部分で表現した。たくさんのパールで海の泡を表現し、マーメイドの儚さと優雅さを出した。</p>	<p>「祝福」 バラの花束をイメージして裾にたくさんのフリルをあしらった。様々な人に支えられ、幸せが溢れた3年間の感謝を込めて製作した。</p>
			

(3) 効果的な発表方法の研究

効果的な演出方法を研究する。発表を通して、作品をより魅力的に見せるための効果的な演出パフォーマンスを以下の①から⑤の過程を通して研究した。

① 広報活動

発表会のテーマはクラス全員で話し合い設定。
例年テーマに沿った広報ポスターを作成し校内に掲示してきたが、今まで服飾科のみの行事であった学習成果発表会が今年度は学校行事となり、服飾科のテーマに沿ったポスターを製作することはできなかった。
しかし、パンフレットは服飾科独自で製作し、表紙のデザインはテーマに沿ったものを描き、クラス内投票で決定した。
各作品のデザイン画と作品解説を載せたパンフレットを作成し、当日受付で配布した。



パンフレット

② ショーの構成の検討

今年度は、これまで使用してきた会場が改修工事の為使用できなくなり、新しい会場での実施となったため、ショーの構成については会場のスタッフと打ち合わせを繰り返し、一から検討した。打ち合わせに、生徒も2回同席し、音響照明の説明を受けるとともに、イベン

トを実施する際の留意事項等も説明を受け、自分たちが作り上げていくという自覚を早い段階から持つことが出来た。過去の発表会を参考にしつつも、新しいステージでの効果的な場面転換・照明の活用・観客を飽きさせない発表の順番の順番等の工夫を計画した。

③ ウォーキング

格技室に舞台を想定してシートを敷き、11月末よりウォーキング練習を開始した。デザインが映えるポーズや動きを考え、ウォーキングやポージングを繰り返し練習することで、いかに美しく、効果的に見えるかを確認しながら、事前に何度も練習した。



④ 照明、音響計画の作成

会場スタッフの説明を受け、新しい会場で可能な、作品イメージに合う音響や照明計画を作成した。進行表を作成し、それをもとに、舞台袖より3年生照明係が合図を出し、2年生スタッフが音響・照明効果を演出した。

< 1・2年生との連携 >

照 明

ピンスポット

音 響



⑤ エンディング

ショーの最後には、3年生の生徒が1人ずつステージに現れ、最後全員揃ったところでチーフがあいさつをした。テーマ、作品説明、作者の意図について、事前に3年生の生徒全員が考えた文章をまとめ、1人ずつステージに現れる際に2年生の司会が紹介をした。一人一人の工夫やこだわりを、どう表現するか考え、の大きさ、スピード等、観客に伝わる表現の仕方を研究した

エンディング



ショー



5 研究成果及びまとめ

① 作品製作について

学習成果発表会では3年間のまとめとなるような作品を各々のテーマで制作する。憧れであるドレス系の大型の作品が多い傾向にあるが、中にはずっと作りたかった着物に挑戦した生徒や、好きなキャラクターをイメージして作品にした生徒もおり、様々な個性があふれるステージとなった。各々のデザインテーマも、各自の3年間の思いがこもったものであった。素材の選択にあたっては、オーガンジーやレースなどの薄物やフリルを多用したドレス、手作りの花をドレスにちりばめ、手芸的な要素を取り入れた作品も多く見られた。

地道に努力する作業を通して、縫製技術だけでなく集中力や協調性等の様々な力を身につけることができ、学びを深める素晴らしい機会であった。

② 作品展示について

服飾科での学びを紹介するための展示は、厳選されたファッションショー作品の展示（ボディ5体）と、学習成果発表会で披露する作品のコンセプト等を一人一人記した『スタイルブック』、学習成果発表会までの日常の学校生活の取組みを表した『リボンの木』、校内ファッションデザインコンクール受賞作品に加えて、諏訪市「ものづくり科」の小中学生の取組み 作品及びパネル展示を行った。

③ 1・2年生スタッフとの連携

発表会の裏方を支えるのは1・2年生である。本番では舞台袖からの3年生の指示出し（キュー）をし、照明・音響等の操作を行っている。受付の係員は、今年度は商業科の生徒も一緒になって様々な来場者を迎えた。来賓の誘導をする生徒や、来場者が迷わず着席出来るよう補助をする生徒たちは、お客様と直接触れ合い、終了後には大きな達成感があった。発表からも下級生は先輩の姿から様々なものを学び、来年・再来年度の自分たちの発表に対すると期待と制作意欲へとつながっている。

今年度は商業科の生徒が加わり、役割分担等例年通りではない形になった。商業科の生徒で、準備や運営に関わる生徒はごく一部であるのに対して、服飾科は全員がスタッフとなってお客様をお迎えするスタイルを貫いたが、生徒たちも混乱なく積極的に取り組めたため、来年度も同様の形で実施したいと考えている。

④ ステージ発表

ステージ発表はショー形式で行った。パンフレットなどの広報活動、ショーの構成・音響・照明・ナレーションなど。服飾科生徒全員がショーの役割を担い、それぞれの責務を果たしながら、自主的に活動を進めた。

広報活動は、生徒がデザインした作品を用いてパンフレットを製作した。パンフレットは、作品のデザイン画、テーマと制作者の意図やこだわりを掲載した。

照明は会場のスタッフと事前打ち合わせを繰り返し、打ち合わせをした生徒が他の生徒に説明をして理解を深めた。その上で、照明計画を立てるとともに。ウォーキング計画を立て、より作品の良さを引き出すことの出来るよう練習を重ねた。5、6月に外部講師に指導してもらい、ポージングやターンの仕方、歩き方、服の見せ方などを教えてもらう機会をもったことで、ウォーキングの表現の幅が広がった。

卒業制作のまとめとして、発表作品のデザインコンセプトや制作方法を「制作レポート」として作成し、下級生の参考となるよう展示している。

また、係ごとに反省をまとめ、1月下旬に2年生の生徒へ引継ぎを行った。

服飾科生徒にとってこの行事は、社会性や様々な気配り、判断力や自主が要求される、緊張感のある総合的な学びの場になっている。服飾科生徒全員が協働して作り上げていくことで得られる学びは、生徒にとって社会へ出たときにも活かせる財産ともいえる力となる。このような経験をさせられる場として、学習成果発表会は機能しており、保護者や教員にとっても生徒の成長を見守り見届けられる素晴らしい経験となっている。